令和６年度

高田高等学校
入学試験問題
国語

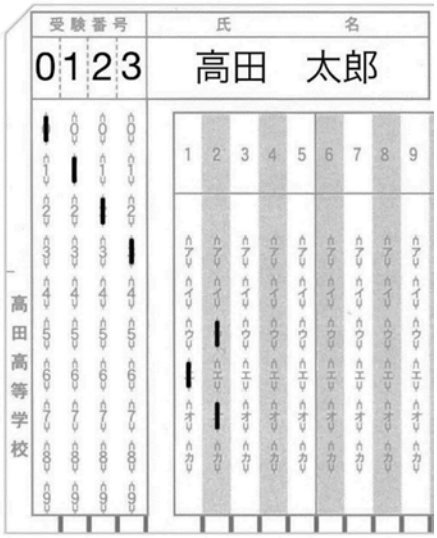
《注意事項》

１　問題冊子は、試験開始の合図があるまで開いてはいけません。
２　問題冊子および解答カードの不備に気付いた場合は、手を挙げて知らせてください。
３　解答カードには、受験番号と名前を記入し、受験番号を必ずマークしてください。
４　解答欄は［1］～［25］です。
５　解答はすべて解答カードにマークしてください。
６　解答は【解答カードのマークのしかた】に従って、間違いのないようにマークしてください。
７　問題冊子の余白はメモ等に利用してかまいません。
８　試験終了後、この問題冊子は持ち帰ってください。

【解答カードのマークのしかた】

（例）

・［1］の答えがエの場合、1の欄のエをマークします。
・［2］の答えが二つあってウとオの場合、2の欄のウとオをマークします。



【一】次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

筆者が、生活苦から路上で金銭の施しを求めてきた女性を避けたことに対して、一緒にいた小学三年生の息子が「なぜ、かわいそうな人にあんな仕打ちをするのか」と泣きながら強く主張したことを受けて、次の文章が書かれている。

「困っている人がいたら助けましょう」。これが小学生の頭の中にある行動＊規範です。なぜなら学校の授業でそう習ってきたし、そうすべきだと自分でも心がけてきたからです。世界は、困っている人が当然のように助けられる場所だと思っていた。

それなのに、その絶対的なルールを、一番身近な大人である母親が目の前でやぶったのです。パニックになるのも無理はありません。

Ⅰ、私も「困っている人は助けるべきだ」ということは理解していたつもりです。Ⅱ、あの状況でそれに従うことはできなかったし、従うのが最善ではないかもしれないということ、Ⅲ この規範がそれほど絶対的ではないということも、いつの間にか知っていました。「困っている人は助けるべきだ」は「タテマエ」であって、「ホンネ」は別にある。そんなふうに考えていました。

要するに、私と息子は、①道徳と倫理のあいだで引き裂かれていたのでした。小学校の道徳の授業で習うような、「〇〇しなさい」という絶対的で普遍的な規則。これに対し倫理は、現実の具体的な状況で人がどう振る舞うかに関わります。相手が何者か分からず、自分の身を守る必要もあり、時間やお金の余裕が無限にあるわけではない今・ここの状況で、どう振る舞うことがよいのか。あるいは少しでもマシなのか。倫理が関わるのはこういった領域です。

哲学者の＊アラン・バディウは、その名も『倫理』という本のなかでこう述べています。「倫理を抽象的＊範疇（はんちゅう）（人間、権利、他者……）に結びつけるのではなく、むしろさまざまな状況へ差し戻すことにしよう」。そしてバディウは言います。倫理に「一般」などというものはない、と。なぜなら状況が個別的であるのに加えて、判断をする人も、それぞれに異なる社会的、身体的、文化的、宗教的条件のなかに生きており、その個別の視点からしか、自分の行動を決められないからです。「②倫理『一般』などないとすれば、それは倫理『一般』で自己を武装せねばならない抽象的な主体などないからだ」。

哲学や倫理学のような学問の領域に限らず、社会生活のさまざまな場面で、私たちはものごとを一般化して、抽象化して捉えてしまいがちです。「人間」「身体」「他者」という言葉。ほんとうは、そんなものは存在しません。それぞれの人間は違うし、それぞれの身体は違うし、それぞれの他者は違っています。

けれどもついついその差異を無視して「人間一般」「身体一般」「他者一般」について語り、何かの問題を扱ったような気になってしまう。もちろん、道徳が提示する普遍的な視点を持つことも重要です。そうでなければ、人は過剰に状況依存的になってしまい、その場まかせの行動をすることになってしまうでしょう。けれども、「一般」として指し示されているものは、あくまで実在しない「仮

表　道徳と倫理の区別（古田徹也『それは私がしたことなのか』エピローグより）

道徳（moral）	倫理（ethics）
画一的な「正しさ」「善」を指向する →万人に対する義務や社会全体の幸福が問題となる	「すべきこと」や「生き方」全般を問題にする →「自分がすべきこと」や「自分の生き方」という問題も含まれる
非難と強力に結びつく →「すべき」が「できる」を含意する	非難とは必ずしも結びつかない →「すべき」が必ずしも「できる」を含意しない
人々の生活の中で長い時間をかけて定まっていった答えないし価値観が中心となる	X
価値を生きること	価値を生きるだけでなく、価値について考え抜くことも含まれる

説」であることを、忘れてはなりません。なぜなら「一般」が通用しなくなるような事態が確実に存在するからです。そして、③倫理的に考えるとは、まさにこのズレを強烈に意識することから始まるのです。

さて、［A］が具体的な状況に関わるということをさらに一歩進めて考えるならば、そこでは「できるかできないか」ということが問題になるということを意味します。この点に関しては、哲学者・倫理学者の＊古田徹也の議論を参照しましょう。古田は、倫理と道徳の違いを、いくつかの観点から非常に分かりやすい表の形にまとめています（表）。

表のうち、一番上の行は、先に確認した「道徳＝普遍」「倫理＝個別」に関するものです。「できるかできないか」に関わるのは、次の上から二つ目の行。道徳が、「困っている人がいたら助けるべきである」「嘘（うそ）をつかず、どんなことも包み隠さず話すべきである」等、その人の能力や状況によらない正しさを示すとき、その「［B］」は、「すべきだができない」というジレンマが発生する可能性を前提にしていません。つまり、「すべき」が問答無用の「［C］」を含意している。だからこそ、なすべきことをしなかった人は「なぜしなかったのか」と非難されることになります。

これに対し、倫理においては「すべき」とは別に「できるかどうか」という＊審級があります。「嘘をつくべきではないことは分かっている。でも、真実を伝えることは彼女を傷つけることになるから、少なくとも今の私にはできない」。まさにこうした、「すべきだができない」状況に、人はしばしば陥ります。「すべきことができる」ならば、それは道徳でよいのです。けれども、それでは解決できないとき、＊逡巡（しゅんじゅん）しながら、人は自分なりの最善の行為を選ぼうとします。倫理が問題になるのは、この迷いにおいてです。

倫理に「迷い」や「悩み」がつきものである、ということは、④倫理が、ある種の創造性を秘めているということを意味しています。なぜなら、人は悩み、迷うなかで、二者択一のように見えていた状況（「女性に施しをするか否か」）にも実は別のさまざまな選択肢がありうること（「⑤ジゼン団体に寄附をすること」「格差や貧困について研究すること」「子供がアメリカ社会について学ぶ機会をつくること」）に気づき、⑥杓子定規（しゃくし）に「～すべし」と命ずる道徳の示す価値を相対化することができ

るからです。もちろん、それは定まった価値の外部に出ること、明確な答えがない状態に耐える不安定さと隣り合わせです。しかし、この迷いと悩みのなかにこそ、現実の状況に即する倫理の創造性があるといえます。

先の表では、三、四行目がこのことを指摘しています。道徳は、定まった答えや価値をなぞること、つまり「価値を生きること」が中心になるのに対し、倫理は「価値について考え抜くこと」をも含むのです。

（伊藤亜紗（あさ）『手の倫理』より）

（注）＊規範…判断や行為を評価する基準。ルール。　＊アラン・バディウ…フランスの哲学者（一九三七～）　＊範疇…区分。カテゴリー。
＊古田徹也…日本の倫理学者・哲学者（一九七九～）　＊審級…ここでは判定のこと。　＊逡巡…決断をためらうこと。

問　空欄Ⅰ・Ⅱ・Ⅲに入る語句の組み合わせとして最も適当なものを、次のア～オから選びなさい。 1

ア．Ⅰ―だから　Ⅱ―しかし　Ⅲ―それゆえ
イ．Ⅰ―すなわち　Ⅱ―よって　Ⅲ―けれども
ウ．Ⅰ―もちろん　Ⅱ―けれども　Ⅲ―つまり
エ．Ⅰ―しかし　Ⅱ―だから　Ⅲ―もちろん
オ．Ⅰ―そのときは　Ⅱ―もちろん　Ⅲ―しかし

問　傍線部①「道徳と倫理のあいだで引き裂かれていた」とありますが、どのようなことですか。最も適当なものを次のア～オから選びなさい。 2

ア．目の前で起こったことに対してその時の心情のままに行動するか、状況に即して振る舞うかで食い違っていたということ。
イ．困っている人を誰かが助けてくれると考えるか、自分が助けなくてはならないと考えるかについて迷っていたということ。
ウ．学校で学ぶルールを厳格に守っていくべきか、むしろ積極的に破っていくべきかをめぐって葛藤していたということ。
エ．困っている人を助けることは絶対の規範であるか、その場の状況に応じて行動するべきかで対立していたということ。
オ．ルールを守る理由は他人を助けるためであるのか、自分が利益を得るためであるのかについて争っていたということ。

問　傍線部②「倫理『一般』などない」とありますが、なぜですか。最も適当なものを次のア～オから選びなさい。 3

ア．人間は異なる社会、身体、文化、宗教に縛られて生きており、倫理を守って生活することは不可能だから。
イ．人間はそれぞれの状況を生きなければならず、個別の場面すべてを解決するようなルールは存在しないから。
ウ．人間はお互いの立場の違いを理解しきれないので、独自の判断を他人にも押しつけてしまうことがあるから。

エ．人間は建前と本音の二つの側面を持っているため、すべての振る舞いが倫理的判断によるとは限らないから。
オ．人間は個人ごとの差異を持たない同質の存在であるため、一般的な倫理という考え方自体に意味がないから。

問　傍線部③「倫理的に考える」とありますが、どうすることですか。最も適当なものを次のア～オから選びなさい。 4

ア．「すべき」とされていることをしなかった人を批判し、能力や状況は理由にならないことを示して、反省を促すこと。
イ．社会全体の幸福が最優先であるとしたうえで、相手の立場や自分の状況に応じて、できる限り相手を思いやること。
ウ．道徳による解決を最優先としながらも、多様な考え方を尊重するために、他の解決方法も考えて用意しておくこと。
エ．「すべき」とされていることと、自分の身の周りで起こった事象とを照らし合わせ、より善いものを創造すること。
オ．個別の具体的な状況について、「できるかどうか」を含め検討することによって、多角的な解決方法を考えること。

問　空欄A・B・Cに入る語句の組み合わせとして最も適当なものを、次のア～カから選びなさい。 5

ア．A―倫理　B―すべき　C―できる　　イ．A―倫理　B―できない　C―しなくてはならない
ウ．A―倫理　B―すべき　C―せよ　　エ．A―道徳　B―できない　C―しなくてはならない
オ．A―道徳　B―すべき　C―せよ　　カ．A―道徳　B―できない　C―できる

問　傍線部④「倫理が、ある種の創造性を秘めている」とありますが、どのようなことですか。最も適当なものを次のア～オから選びなさい。 6

ア．社会を優先するため対応できない事例がある道徳とは異なり、倫理は個人を尊重してすべての事例に対応できるということ。
イ．非難を避けたいという圧力を社会に生じさせる道徳とは異なり、倫理は状況に応じた徹底的な反省を求めてくるということ。
ウ．単一の価値観に基づいた二者択一を迫る道徳とは異なり、倫理は複数の価値観に基づくため自然と答えは定まるということ。
エ．正しさに基づいた明確な答えしか出せない道徳とは異なり、倫理は状況に応じた最善の行為を考える余地を持つということ。
オ．普遍的価値に基づき思考停止を引き起こす道徳とは異なり、倫理は自由を求めて普遍的価値を否定するよう促すということ。

問　傍線部⑤「ジゼン団体」の「ジ」と同じ漢字を含むものを、次のア～オから選びなさい。 7

ア．シュクジを述べる。　イ．ぜんそくのジビョウに悩む。　ウ．ジシンに満ちた態度。
エ．旅を終えてイエジにつく。　オ．ジアイに満ちたまなざし。

問　傍線部⑥「杓子定規に」の意味として最も適当なものを、次のア～オから選びなさい。 8

ア．そっけない様子　イ．無神経な様子　ウ．融通のきかない様子　エ．利己的な様子　オ．冷静沈着な様子

問　表中のXに入ることばとして最も適当なものを、次のア～オから選びなさい。 9

ア．定まっている答えを否定する、新たな価値観を創造することが目的となる
イ．答えが定まっていない、現在進行形の重要な問題に対する検討も含まれる
ウ．定まっている答えや価値をなぞり、万人が納得のいく答えを見つける
エ．長い年月をかけて定まり、多くの人々が従っている価値観を尊重する
オ．相手の立場になって、相手の気持ちを考えながら最善の選択肢を選ぶ

問　本文の内容を踏まえると、次のⓐ～ⓒの行為はそれぞれ道徳的判断によるものと倫理的判断によるもののどちらですか。組み合わせとして最も適当なものを、あとのア～カから選びなさい。 10

ⓐ初対面の人物に名前や住所を聞かれて正直に答える。
ⓑ末期がんで助かる見込みがない患者に「必ず助かる」と嘘をついて励ます。
ⓒ自分が今後生活できなくなるような金額を、貧しい人たちのために寄付する。

ア．ⓐ道徳的判断　ⓑ倫理的判断　ⓒ道徳的判断　イ．ⓐ道徳的判断　ⓑ倫理的判断　ⓒ倫理的判断
ウ．ⓐ道徳的判断　ⓑ道徳的判断　ⓒ倫理的判断　エ．ⓐ倫理的判断　ⓑ道徳的判断　ⓒ倫理的判断
オ．ⓐ倫理的判断　ⓑ道徳的判断　ⓒ道徳的判断　カ．ⓐ倫理的判断　ⓑ倫理的判断　ⓒ道徳的判断

【二】次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

私（文中で「辻脇（つじわき）さん」と呼ばれる人物）と長谷部（はせべ）君の二人は生物のテストで赤点（三〇点未満）を取ったため、放課後に課題のプリントに取り組まなければならなくなった。次の文章は、二日目の補習の場面である。

放課後の教室に人の気配はなく、今日も私と長谷部君の二人しかいない。机の上に広げられたプリントを＊一瞥（いちべつ）し、私はフンと鼻を鳴らした。深緑色の黒板には、最後の授業で板書された≪　X　≫世界地図が残っていた。七時間目は世界史だった。

「長谷部君、どれぐらい進んだ？」

「ん？　あと二枚」

「嘘（うそ）ォ」

思わず顔を向ければ、その言葉通り残されたプリントはほとんどなかった。これだから秀才は、と①私はシャープペンシルを投げやりに机の上に転がした。すっかりやる気が削（そ）がれ、体ごと長谷部君の方に向き直る。丸みを帯びる彼の輪郭を、細い眼鏡のツルが横切っていた。

「早くない？　もしかして、教科書見ずに全部答えてる？」

「まあ、この程度なら見なくても答えられるよ。受験で生物使うしね」

「えー、それだったら、本当なんで赤点なんて取ったの」

②私の問いに、長谷部君は顔を軽く上へ向けた。視線を辿（たど）ると、黒板よりさらに上のスペースに重苦しい色をしたスピーカーが存在していた。

「僕さ、帰宅部なんだよね」

「うん、知ってる。一年の時、クイズ研究会に誘われたけど断ったんでしょ？」

「なんでそんなこと知ってるの」

「噂（うわさ）だよ、噂。一年の頃から有名な話だったけど」

「そうだったんだ。なんか照れるね」

恥ずかしそうに、長谷部君は頬を掻（か）いた。私は腕を組む。

「なんで部活に入らなかったの？　私は部活やるメリットがあんまり見出せなかったからだけど、長谷部君はそういう理由じゃなさそう」

「僕も似たようなもんだよ。勉強以外に何かをやるつもりがなくて」
でもさ、と彼は続けた。［　I　］の眉がぴくりと震える。
「この前、＊宮本（みやもと）さんが原稿用紙を睨（にら）みながらね、赤ペンで書き込みしてたんだよ。何度も何度も見返してさ」
「知咲（ちさき）が？」
「そう。放送部の後輩が使う原稿の直しをしてたみたいで。自分のじゃないから責任重大だよ、って言ってて。それで、なんかいいなあって思ったんだ」
「なんかって、また随分アバウトだね」
「いや、うまくは言えないんだけどさ。なんというか、僕と宮本さんじゃ世界の見え方が違うのかなってその時感じたんだ。僕は先ばっか見てるけど、宮本さんは今を見てる」
宮本さん、と知咲の名を口にする彼の態度は、至って真摯なものだった。同級生に対する③純粋な尊敬と感心の中に、余計なものは混じっていない。
「それのどこが赤点と関係あるわけ？」
声が低くならぬよう意識しつつ、私は尋ねた。
「僕と辻脇さんって、結構④似てるタイプなんだろうなって思うんだよ。ほら、辻脇さん、さっき言ってたでしょ？　メリットがないから帰宅部になったって」
「まあ、言ったけど」
「そういう考え方、すごく共感できる。僕、時間って有限な資産だと思ってて。勉強自体すごく好きだし、難しい問題を考えるのは楽しいけど、じゃあこれが未来にまったく役に立ちませんって言われたらどれくらい頑張れるんだろうってたまに思うんだよ。勉強って、将来への投資みたいなところあるでしょ？」
「そりゃそうでしょ。勉強嫌いな子が頑張るのも、結局は自分の将来のためだし」
良い大学を目指すのは、＊就活を少しでも有利に進めるため。勉強したい内容なんてなく、大半の人間が大学を職業訓練所とでも思っている。そして、大多数の人間の持つ考え方のことを、世間一般には常識と呼ぶ。たとえ、その内容が理不尽なものだったとしても。
私は効率よく生きたい。損をしないよう、できるだけ最良のルートを辿りたい。誰もが羨む大学に入り、誰もが羨む職に就く。それが望ましい人生なのだろう？　常識が、私にそう言っている。
「勉強が未来への投資とするなら、部活って今の消費なのかなって思うんだ。僕はね、未来の僕のために時間を使うのは全然平気なん

だけど、今の僕のために時間を無駄遣いするのは嫌なんだ。でも、宮本さんはそれを無駄遣いだとも思っていない。それってなんか、すごいことだなって」

「はあ、なるほどね。わかるようなわからないような」

曖昧に頷く私に、長谷部君は苦笑した。

「僕はさ、自分を善良な人間だと思ってるんだ。真面目だし、成績もいいし、親を落胆させたこともない。派手な思い出はないけど、これといった失敗もない。能力のステータスは偏ってるけど、それでも僕って人間の総合点は、長い目で見ると平均よりかなり上に来ると思う」

「自分でそれ言っちゃうんだ」

「だって事実だし」

平然と言い放たれ、私は「おぉ」と短く唸った。頭がいいわけじゃないからと謙遜していた⑤昨日の彼は、幾重にも重ねられた社交性のフィルターを通した後の姿だったのであろう。彼は己の能力の高さを自覚しているし、そんな自分を親しくない女子に隠す程度の処世術も身に付けている。

そして今、そのフィルターは取り払われた。まるで秘密を打ち明けるように、長谷部君が息をこぼす。

「でも、宮本さんを見てたら本当にそれでいいのかなって。だからね、自分はどこまでなら今を無駄遣いすることを許せるのか、⑥実際に色々と試してみることにしたんだよ」

「試すって、どうやって？」

「そのひとつがこれ。学校のテストで赤点を取る」

二人の机の上にはプリントの束が積まれている。私にとって、生物は不必要な教科だ。受験科目にないからと、最初から学ぶことを放棄した。この補習時間は、私のそうした選択の［A］だ。赤点の補習時間とテスト対策の手間を［B］にかけ、私はその前者を選び取った。そして長谷部君は、それとは全く違う理論に基づいて動いている。

むくり、と好奇心が頭をもたげた。他人の思考を探るのは面白い。その相手が賢ければ、尚更。

「長谷部君にとって、赤点を取るのが今の消費ってこと？」

「だって、消費以外の何物でもないじゃん。あんなに簡単なテストでわざわざ赤点を取るだなんて」

「私は本気でやって赤点だったんだけど？」

「良く言うよ。辻脇さんにとって、生物は時間の無駄なんでしょ？」

笑い交じりに、長谷部君が昨日の私の台詞を繰り返した。
「私にとっては、ね。それで？　実験の結果はどうなったの」
「はは、全然ダメだったよ。学校のテストで赤点を取る、これは僕的にＯＫだった。けど、模試を白紙で出すのはダメ、許せない。予備校をサボって遊びに行くのもダメだった」
指を折りながら、長谷部君は自分の試した事柄を一つ一つ上げていく。その全てが勉強に関連しているのは、彼の真面目さ故だろうか。
「模試で白紙と学校のテストで赤点って、どっちも似たり寄ったりじゃない？」
「僕もそう思ったんだけどね、本能的にできるできないって判断してるみたいなんだよ。で、何が違うのかなって考えて分かったんだけど、僕、金銭的な価値があるものを⑦無下にするのは嫌みたいだ。だから模試も予備校も大事にしてる。でも高校のテストは赤点だろうが入試に差し支えないし、デメリットがないからセーフだった。むしろ、こうやって補習用のプリントをもらえるだけ他の人より得してるって言ってもいい。つまり僕は、損したくないって気持ちが他人より強いみたいなんだよね」
私もだよ。浮かんだ言葉が、＊逡巡の中に呑み込まれる。己の醜さを晒す勇気が、私にはまだない。目を逸らし、私はぎこちなく声を紡いだ。
「それを堂々と胸を張って言えるの、長谷部君の強みだよね」
⑧逃げの言葉だったのに、長谷部君ははにかんだ。上気した彼の頬が［Ⅱ］みたいにピカピカと赤く光っている。落ち着きなく眼鏡フレームに触れるその指先を、ひどく愛らしいと思う。

（武田綾乃『青い春を数えて』より）

（注）＊一瞥…ちらっと見ること。　＊宮本さん…放送部に所属する「私」の同級生。後出の「知咲」と同じ。　＊就活…就職活動のこと。
＊逡巡…決断をためらうこと。

問　空欄Ｘに入る語句として最も適当なものを、次のア～オから選びなさい。　11

ア．いびつな　イ．にわかに　ウ．うつろな　エ．むやみに　オ．つぶらな

問　傍線部①「私はシャープペンシルを投げやりに机の上に転がした」とありますが、なぜですか。最も適当なものを次のア～オから選びなさい。 12

ア．長谷部君が早々と課題を終わらせていることを疑問に思い、秀才だからこそ長谷部君だけが先生に贔屓（ひいき）されているのだと気づき、やる気がなくなってしまったから。

イ．同時に課題に取り組み始めたのに、ほとんど終わらせている長谷部君をうらやましく思い、特別な方法があるなら課題を中断して教えてもらおうと考えたから。

ウ．長谷部君は次々と課題をこなしていくため、教科書を全く見ずに答えているのだと推測し、先生に指示された通りに取り組むべきだと注意しようと思ったから。

エ．同じ補習の仲間だと思っていたのに、秀才ゆえに課題を着実にこなして終わりに近づいている長谷部君の様子を目の当たりにし、課題に対する気力を失ったから。

オ．長谷部君は教科書を一切見ることなく解答できてしまうほどの秀才だからこそ、次こそは赤点を取らないよう、まじめに課題に取り組んでほしいと考えたから。

問　傍線部②「私の問いに、長谷部君は顔を軽く上へ向けた。視線を辿ると、黒板よりさらに上のスペースに重苦しい色をしたスピーカーが存在していた」とありますが、この表現について説明したものとして**適当でないもの**を、次のア～オから一つ選びなさい。 13

ア．「長谷部君は顔を軽く上へ向けた」という描写から、自分の考えを頭の中で巡らせている長谷部君が想像できる。

イ．「視線を辿る」という表現から、長谷部君に興味関心を持ち同じものを見て共有したいという私の思いがわかる。

ウ．「黒板よりさらに上」という表現から、現在よりももっと遠い将来を見据えて思案する長谷部君の様子がわかる。

エ．「重苦しい」という表現は、長谷部君がこの後話そうとすることが他愛もない内容ではないことを暗示している。

オ．「スピーカー」を見る描写によって、長谷部君の思考が放送に関係のある内容に向いていることを表現している。

問　空欄Ⅰ・Ⅱに入る語句の組み合わせとして最も適当なものを、次のア～カから選びなさい。 14

ア．Ⅰ―山なり　Ⅱ―林檎（りんご）　イ．Ⅰ―山なり　Ⅱ―檸檬（れもん）　ウ．Ⅰ―山なり　Ⅱ―蛍

エ．Ⅰ―鈴なり　Ⅱ―林檎　オ．Ⅰ―鈴なり　Ⅱ―檸檬　カ．Ⅰ―鈴なり　Ⅱ―蛍

問　傍線部③「純粋な尊敬と感心」とありますが、何に対する尊敬と感心ですか。最も適当なものを次のア～オから選びなさい。 15

ア．同級生の知咲が、部活に真摯に取り組みつつも、補習にかからず勉強にもまじめに取り組んでいること。
イ．同級生の知咲が、自分の責任を追及されないように原稿を直し、将来を気にしながら行動していること。
ウ．同級生の知咲が、責任を持って後輩の原稿を添削することで後輩から見返りをもらおうとしていること。
エ．同級生の知咲が、将来の自分自身に有益になるように、後輩の原稿を丁寧に見返して添削していること。
オ．同級生の知咲が、後輩のために自分の時間を費やして添削し、それを時間の無駄だと感じていないこと。

問　傍線部④「似てるタイプ」とありますが、これは誰と誰がどういう点で似ているのですか。最も適当なものを次のア～オから選びなさい。 16

ア．私と長谷部君が、今の力が最大限に発揮できるかどうかを基準に行動したいと考えている点。
イ．私と長谷部君が、何事も有益な結果が得られるかどうかを基準に行動したいと考えている点。
ウ．私と知咲が、今の力が最大限に発揮できるかどうかを基準に行動したいと考えている点。
エ．私と知咲が、何事も有益な結果が得られるかどうかを基準に行動したいと考えている点。
オ．知咲と長谷部君が、世間一般の常識に合うかどうかを基準に行動したいと考えている点。

問　傍線部⑤「昨日の彼は、幾重にも重ねられた社交性のフィルターを通した後の姿だったのであろう」とありますが、どういうことですか。最も適当なものを次のア～オから選びなさい。 17

ア．長谷部君は自分が優れた人間であることを受け入れられず、私に対して無意識に平凡な人間だと嘘をついていたということ。
イ．長谷部君が私と二人きりの教室で気まずくならないように、まじめなだけでなく明るく友好的な人物を演じていたということ。
ウ．長谷部君が私と適切な関係を保つため、自分の能力の高さを自覚しながらも賢くないと謙遜し本音を隠していたということ。
エ．長谷部君は自分の能力を謙遜することで、私に同じ補習を受けている仲間だと感じさせて親しくなろうとしていたということ。
オ．長谷部君は自分を社会に必要な人間だと考えているが、それを私に悟られないようにあえて自分を否定していたということ。

問　傍線部⑥「実際に色々と試してみることにした」とありますが、試したことと結果の説明として最も適当なものを、次のア～オ

から選びなさい。 18

ア．お金を払って受験した模試を白紙で提出することは、金銭を無駄にするため許せないと感じた。
イ．クイズ研究会に入部することは、後輩に指導した経験を将来的に生かせるため許せると感じた。
ウ．学校のテストで赤点を取ることは、入試に不利益を生じさせてしまうため許せないと感じた。
エ．予備校の授業を欠席することは、学校の授業内容に大して差し支えないため許せると感じた。
オ．赤点を取って補習に参加することは、他の生徒より自由な時間がないため許せないと感じた。

問　空欄A・Bに入る語句の組み合わせとして最も適当なものを、次のア～カから選びなさい。 19

ア．A―勲章　B―振り子　　イ．A―代償　B―振り子　　ウ．A―余地　B―振り子
エ．A―勲章　B―天秤（てんびん）　　オ．A―代償　B―天秤　　カ．A―余地　B―天秤

問　傍線部⑦「無下にする」の意味として最も適当なものを、次のア～オから選びなさい。 20

ア．見境がなくなる　　イ．乱暴に取り扱う　　ウ．台無しにする　　エ．利益をなくす　　オ．提案を退ける

問　傍線部⑧「逃げの言葉だった」とありますが、どういうことですか。最も適当なものを次のア～オから選びなさい。 21

ア．得か損かの基準で判断する長谷部君に激しく同意したが、それを素直に伝えてしまうと私が長谷部君を愛らしく思っていることを悟られてしまわないか不安に思い、本音を押し殺そうとしたということ。
イ．損をしたくないという長谷部君に深く共感したが、そのような考えを持っていることに引け目を感じているので他人に話すことができず、長谷部君を褒めることで自分の意見を隠そうとしたということ。
ウ．金銭的価値を持つものに対して損をしたくないという長谷部君の考え方には興味があるが、金銭よりも効率に価値を見出す私は全面的に肯定できず、曖昧な返事で共感の姿勢を示そうとしたということ。
エ．メリットがあるかどうかにより行動を決定するという長谷部君の価値観に賛同するが、それを簡単に他人に伝えることに抵抗があるため、長谷部君を褒める言葉の中に皮肉を込めようとしたということ。
オ．今を無駄遣いすることは将来的に利益にならないという長谷部君の見解には違和感があったが、思考を巡らせるうちに自分の考えが確立していないことに気づき、その場を取り繕おうとしたということ。

【三】次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

天明元年に＊酒井雅楽頭（幕府の命令を受けて）、台命を蒙り上京ありしが、雅楽頭はいまだ壮年にて常に＊狆を愛しけるが、右の内最愛の狆は在所往来（領地と江戸の行き来）にも召連給ひしが、此度おほやけの重き御用故連まじき由の所、出立の日に至り駕籠を離れず。＊近習のもの（召し連れなさっていたが）（今回は朝廷の重要な用務なので連れてはいけないと思っていたところ）①へ入れじと防ぎしに、或ひは吠え或ひは喰ついて手に余りぬれば、②品川の駅より返しなんとて品川まで召連、右駅に至りける故（その宿場町に着いたので）是より返しなんと色々なしぬれど、兎角に屋敷にての通故、是非なく上方まで召連けるに、よき犬にや有けむ、京にも其沙汰ありて、天聴に入りぬれば、（京でもそのことが評判となり）（天皇がお知りになったので）「畜類ながら其主人の跡を追ふ心の哀れなり」（心打たれることだ）とて、＊六位を賜はりしとかや。是を聞きて事を好む＊殿上人の口ずさみしや、また（仕方なく）（お与えになったということだ）は＊京童の申しけるや、

③くらひつく犬とぞかねてしるならばみな世の人のうやまわんわん

（『耳嚢』より）

（注）＊酒井雅楽頭…姫路藩第二代藩主。　＊狆…小型の犬種のひとつ。　＊近習…主君のそば近くに仕える家来。　＊六位…官職の等級のひとつ。
＊殿上人…天皇の御殿への昇殿が許された貴族。　＊京童…他人のことを言いふらすのを好む京の若者たち。

問　空欄①に入る語句として最も適当なものを、次のア～オから選びなさい。 22

ア．在所　イ．駕籠　ウ．屋敷　エ．品川　オ．天聴

問　傍線部②「品川の駅より返しなん」とありますが、どういうことですか。最も適当なものを次のア～オから選びなさい。 23

ア．品川の宿場町にたどり着きさえすれば、確実に帰すことができるだろうということ。
イ．とにかく品川の宿場町までは連れて行き、そこからどうにかして帰そうということ。
ウ．品川の宿場町まで連れて行き、そこから引き返すよりほかに仕方がないということ。
エ．たとえ帰すにしても、品川の宿場町まではどうにかして連れて行きたいということ。
オ．品川の宿場町まで連れて行ってしまうと、帰すのがいっそう難しくなるということ。

問　傍線部③の和歌についての説明として最も適当なものを、次のア～オから選びなさい。 24

ア．主人を守ろうとする犬の忠義と飼い主とのきずなの深さに感動し、ほうびとして官職を授けた天皇を敬っている。
イ．酒井雅楽頭の飼い犬が官位を得るほどの名犬であることを、天皇より先に知っていたことを誇らしく思っている。
ウ．人にかみつく犬を都に連れてきてしまった酒井雅楽頭の、無責任な愛情と非常識さに対する怒りを表現している。
エ．自分の犬の素晴らしさを京の人々に知ってもらうために、苦労して連れてきた酒井雅楽頭の愛情に感動している。
オ．犬が飼い主を困らせたことでかえって人間と同じ官位を授かることのこっけいさを、面白おかしく表現している。

問　傍線部③の和歌に最も関係が深いものを、次のア～オから選びなさい。 25

ア．季語　イ．句切れ　ウ．掛詞　エ．倒置法　オ．字余り

（国語の試験問題は以上です。）